

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
compass		令和8年1月30日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員や子どもの状況を踏まえ、活動内容に応じて複数の部屋を使い分けることで、落ち着いて過ごせる環境を整えている	利用状況や活動内容の変化に応じて、スペースの使い方を定期的に見直していく必要がある
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		専門職を含めた職員配置により、子どもの特性に応じた支援体制を構築している	利用人数や支援内容の変化に応じて、配置バランスの検討を継続する
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的な配慮や構造化を意識し、子どもが見通しを持って過ごせる空間づくりを行っている	子どもの特性の変化に応じて、環境調整をより柔軟に行う必要がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃・消毒を徹底し、活動内容に応じたレイアウト変更や装飾を行っている	子どもの意見をより反映した環境改善の仕組みづくりが求められる
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別で過ごせるスペースを確保し、安心して気持ちを落ち着けられる環境を整えている	個別対応と集団活動との切り替えをよりスムーズに行う工夫が必要
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティングの他に業務改善に関する委員会を設置しており、職員が業務改善に関わる機会を確保している	改善の成果や進捗を可視化し、職員間で共有する仕組みを強化したい
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価を通じて寄せられた意見を業務改善に反映している	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		業務改善の委員会や個別の面談を通じて意見を収集し、改善策につなげている	意見交換が一部の職員に偏らないよう、参加しやすい場づくりが求められる
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部の視点を具体的に業務改善へどう活かすかの整理が必要
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や法人内研修を活用し、職員の専門性向上を図っている	研修内容を実践にどう落とし込むかの振り返りを強化したい
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを整備・公表し、支援内容の明確化を図っている	実践内容との整合性を定期的に確認し、必要に応じて見直す
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		独自のアセスメントを用い、客観的な視点で個別支援計画を作成している	ニーズの変化に応じた計画修正のタイミングを整理したい
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員に関わる支援会議を通じ、共通理解を図っている	議論の質を高め、より具体的な支援方針につなげたい
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画内容を職員間で共有し、計画に沿った支援を実施している	実施状況のモニタリングをより体系的に行う必要がある
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマル・インフォーマル双方のアセスメントを活用している	記録の客観性を高める工夫が必要
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づき、本人支援・家族支援等を計画に反映している	支援項目が多岐にわたるため、優先順位の整理が必要
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで活動プログラムを立案し、柔軟に対応している	立案の根拠やねらいを言語化する工夫が求められる

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事や子どもの意見を取り入れ、活動の固定化を防いでいる	個々の意見をより計画に反映する仕組みづくりが必要
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を状況に応じて組み合わせている	活動バランスの調整を継続的に行う
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前の打合せで役割分担を明確にしている	支援中の変更時の情報共有をより迅速にしたい
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後の振り返りを行い、気づきを共有している	振り返りを次の支援改善につなげる視点を強化する
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		詳細な記録を通じて支援の検証を行っている	要点を整理し、活用しやすい記録にする必要がある
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		計画的にモニタリングを実施している	ヒアリング方法を工夫し、具体的な課題抽出につなげたい
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○		バランス良く組み合わせたプログラムを計画している	活動間の切り替えを支援する工夫が必要
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動プログラムの選択肢を提示し、こどもたち自身がどの活動に参加するかを選べる機会を提供。 また、アドボカシーの視点を取り入れたサポートを行っている	今後も職員全員が「こどもの声を聴き、それを支援に活かす」という共通認識を持つ仕組みを強化していく
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議等には、児発管に加え、日頃の様子を把握している職員も参加し、状況を踏まえた共有を行っている	会議内容が事業所内の支援に確実に反映されるよう、共有方法や振り返りの仕組みを整理したい
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関との連携を意識し、必要に応じて情報を共有するよう努めている	子どもの状況に合わせて、必要な支援が受けられるよう関係機関との連携を増やす方向で検討していく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と下校時刻や行事予定等の情報共有を行い、送迎や支援の見通しを立てやすくしている	情報のタイムラグが生じる場合があるため、連絡ルートの明確化と共有の迅速化を図りたい
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前の関係機関等から得た情報を、必要に応じて支援に活用し、移行後の不安軽減につなげている	引継ぎ内容が断片的にならないよう、要点を整理し、支援計画へ反映する手順を整えたい
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現時点で移行支援の対象児はいないが、将来の移行を見据え、情報提供の準備や視点の整理を進めている	移行支援に必要な情報を体系的にまとめ、いつでも提供できるようにする
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターに限らず、外部講師や専門職等から助言・SVを受けられる体制を確保している	必要なテーマを明確化し、SVや研修の頻度・内容を計画的に充実させたい
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園活動等を通じて、自然な形で地域の子どもの関わりが生まれる機会を大切にしている	交流の有無が分かりにくい面があるため、機会の整理や保護者への共有方法を検討したい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	協議会等の必要性を認識し、情報収集や参加の検討を行っている	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳等を通じて、日々の様子や変化を共有し、保護者とのコミュニケーションを継続している	保護者が相談しやすい導線を増やし、情報交換の機会をさらに確保したい
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		茶話会等を通じて、保護者同士の交流や情報共有の場を設ける他に、家庭で活かせる支援のヒント等の情報発信を行っている	参加しやすい日時設定やテーマ設定を工夫し、家族支援の機会を段階的に拡充したい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学・契約時に、運営規程、支援内容、利用者負担等について丁寧に説明し、理解の確認を行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		本人の気持ちや保護者の意向を日常的に確認し、意思の尊重と最善の利益の観点を支援計画へ反映するよう努めている	意見を引き出しやすい質問の仕方や記録方法を整え、具体的な意向を把握しやすくしたい
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画を示しながら支援内容を説明し、同意を得たうえで支援を進めている	保護者がイメージしやすいよう、支援例や活動例を用いた説明を増やしたい

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や連絡帳、面談等で相談に応じ、必要に応じて助言や支援につなげている	相談対応の質を均一化するため、事例共有や研修を通じて職員の対応力を高めたい
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会や行事（秋祭り等）を通じ、保護者やきょうだいも含めた交流の機会を設けている	保護者ニーズを踏まえ、交流機会の頻度や形（少人数・テーマ型等）を検討したい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情解決に関する規定を整備し、規定に基づいた対応を行っている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやSNS等を通して情報発信を行っている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		管理規程に基づき、個人情報の保護と適切な取り扱いを徹底している	
	44	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		家庭ごとのコミュニケーション方法に配慮し、伝え方や手段を工夫して意思疎通を図っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	行事等への招待は行っていないが、近隣住民とは良好な関係を持つことが出来ている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止・緊急時・防犯・感染症等の各種マニュアルを整備し、状況に応じて見直しを行っている	周知が形式的にならないよう、要点をまとめた資料や説明機会の工夫が必要
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、災害を想定した訓練や見直しを継続している	職員が迷わず動けるよう、訓練の質（シナリオ・役割・振り返り）を高めたい
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬やてんかん発作等の健康情報を確認し、必要な対応ができるよう職員間で共有している	保護者が伝えやすい仕組みを整え、情報更新を確実にしたい
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギー等について、保護者からの情報を基に把握し、必要に応じて医師の指示に基づく対応を行っている	情報更新の漏れを防ぐため、定期確認の手順を明確化したい
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき、研修や対応手順の確認を行い、事故・トラブル時の対応力向上に取り組んでいる	日常点検の実施状況を可視化し、潜在リスクの早期発見につなげたい
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の要点を簡潔にまとめた資料を作成し、配布している	安全計画に基づく取組内容を定期的に見直し、その都度保護者に情報を共有する場を設ける
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを共有し、事例ごとの再発防止策を職員間で検討している	対策の効果検証（実行→確認→修正）を回せるよう、評価の仕組みを整えたい
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部講師等による研修を通じて、虐待防止に関する理解と意識の向上を図っている	研修後の振り返りや理解度確認を行い、現場実践につながる形へ改善したい
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束を行わない方針を前提とし、環境調整や行動支援など代替手段を検討する体制を整えている	リスクが高まる場面を想定した予防的な支援を継続的に点検し、必要時の説明・合意手順も含めて整備を進めたい